

[既設舗装版掘削時の現場管理・安全管理手法]

① マンホール周りの段差を、車輪がまたげるよう**広範囲（すりつけ長2m程度）に合材（常温・加熱）ですりつける。**

- ・常温合材ですりつけしたときは、締め固めて飛び散らないようにすること。
- ・乳剤を撒いた後も**合材**ですりつけすること。
- ・砂でのすりつけは認めない。
- ・既設の舗装との段差や水路ボックス等との段差（危険箇所）についても広範囲（すりつけ長2m程度）に合材ですりつける。

② 「段差あり」「徐行」等の工事看板、ポストコーン等の安全施設を適切に設置する。

- ・**通行車輻に段差・危険箇所を認識させ、速度を減速させる**方法を工夫する。
- ・**夜間は赤色灯・投光機等で危険箇所を認識させる。**

具体的に、

- ※1 受注者また担当者は、路盤不陸整正時の**段差箇所を認識**し、段差箇所付近に既設の舗装との段差や水路ボックスとの段差など別の**危険箇所がないか現場調査**し確認する。
- ※2 段差箇所を認識したら、**手前に「段差あり」「徐行」工事看板設置**して、**夜間も投光機等ではっきりと視認できる**ようにする。
- ※3 **危険箇所を、赤色灯・投光機で認識**させ、**手前からポストコーン等で部分的に幅員を狭くして減速させる**ことも考える。
- ※4 幅員6mほどの広い道路では、路盤不陸整正後交通開放するとき、**通行車輻にスピードを出されないよう付近を狭くして両側に赤色灯のついたポストコーンを設置**することも考える。
- ※5 また、幅員の広い道路では、マンホール周辺の段差を広範囲にすりつけてから、**マンホール天端に赤色灯をつけたポストコーン等を置いて車輻がこれを避けて通れるように**することも考える。必然的にスピードもでない。

③ 路盤不陸整正後、**翌日にはすぐに本復旧できるよう**天気予報等考慮して**工程管理**する。

- ・路盤不陸整正してから**舗装本復旧するまでに休日をはさまない。**
- ・**1工区を2・3ブロックに分けて、1ブロックを金曜日（予備；土曜日）までに舗設完了**すること。
- ・**1工区全延長分の既設舗装版を1度に掘削しない**こと。

④ 受注者は、**既設舗装版掘削（切削）月日また、本復旧月日を、事前に必ず市担当者に報告**すること。**週間工程表を作業日までに決裁（報告）**すること。

- ・担当者は、③についてチェックすること。

⑤ 下水管布設が終わって**舗装工を下請け任せにしない**こと。

- ・元請負人技術者は必ず、工事完了まで現場に常駐し、現場管理安全管理に努めること。

⑥ 市担当者は、路盤不陸整正後、**段階確認**として、**路盤不陸整正状況・横断勾配等**を現地調査立会いする。（写真撮影要）

- ・測定基準は、アスファルト舗装（簡易舗装）の厚さ管理測定基準（頻度）に準じる。